

既存建築物（加島屋）の調査



既存建築物 1階平面図 S=1:100

既存建築物 2階平面図 S=1:100



加島屋

おいでまいプロジェクトとは

今回、私たちは多度津町設計事務所を購入している先方さまに協力していただき、お話を伺うことができました。先方さまは、平成24年4月に「おいでまいプロジェクト」を立ち上げ、古民家(日本家屋)の再生を推進、魅力あるまちづくりとしていっています。現在はその活動に賛同する方が増えているそうです。古民家の再生は、今の時代ではなかなか難しく、再生したいという方のご要望も、なかなかおこたえが返ってきません。再生したいという方にもお話を伺ったところ、私たちも協力していきます。



加島屋



多度津町 西浜地区 配置図 S=1:2000

緑の色ガラスについて

加島屋の特徴は何と言っても二階の色ガラスです。軒やかまを採った木製とされている緑色のガラスは、和風の雰囲気を演出しています。現代ではあまり見なくなりましたが、この色ガラスを、当時の姿のまま使用しています。建物の各所に使用されています。



軸組模型の製作

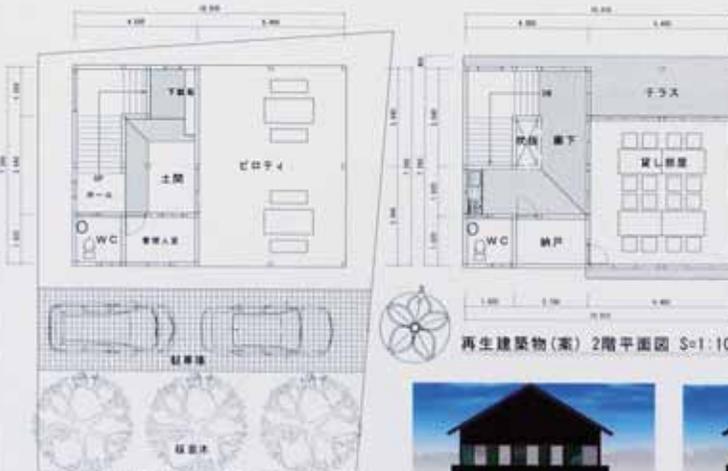


今回の模型は、別紙の1/50スケールで作成しました。加島屋は木村。両方の建築物は軸組材を使って製作しました。両方の家は木造軸組工法で完成してきています。加島屋は木造を軸組にして軸組を完成し、組立てて製作しました。屋根などの部材はドラフティングボードで固定して軸組を完成させました。窓枠には壁紙のシートにスプレーで色を塗ってあります。コンクリートの部分はグレーで着色するなど見分けがしやすいように工夫しました。木の模型はともども完成しているものも使っていますが、軸組を作ったものもあります。製作のために加島屋行成を調査しに行くなど実際に訪ねるようにはなりました。



多度津町西浜地区とは

江戸時代は全盛期を過ぎた上陸漁業で、明治時代は海防の拠点として、長らく交通要所として生きてきたのが多度津町です。江戸時代には多度津藩の城下町として多くの人々が暮らしていました。多度津藩へと通じる本通りには本瓦葺の建物がある町並みがあり、江戸時代の趣が残っています。多度津町は、西国街道の宿場町であり、東海「東海道」(ついでに「西国」)が走る町内に入っています。明治22年3月1日、国鉄東海道線が多度津を起点に、亀戸駅(13.5km)まで営業を始めたのが、西国の鉄道のルーツとなっています。そんな多度津町内にある西浜は、多度津山の麓側に位置する、海に面した場所です。西浜町と東浜町に横切る川は、川筋に町が並び、さらさらと流れて、美しい。西浜は、かつて東浜町の町並みであり、江戸時代には多くの町家が立ち並ぶに比べて空っぽでした。今回、私たちが紹介する「加島屋」も、この西浜にある建物です。



再生建築物(案) 1階平面図 S=1:100

再生建築物(案) 2階平面図 S=1:100

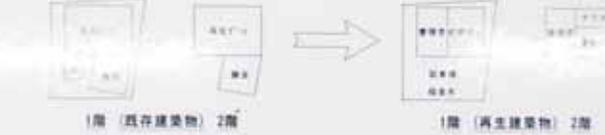
今後の活動について

これからの目標は、ストーリー性のある街づくりです。多度津は、鉄道沿線の地であり、この鉄道のように、建物、地域、地域に近づけたいと思っています。駅から街を渡って、奥につながる道を作り、若い人にも住んでもらえる街づくりを目指しています。来年からは、住民などと一緒に楽しくなったおまつりの大通りを開催予定です。街並みプロジェクトを立ち上げます。このおまつりに合わせて、おまつりをする活動も私たちが実施していきます。

# 古民家再生プロジェクト

～加島屋の再生と人々とのつながり～

再生プラン



設計主旨

この建物は、大通りの中心的なコミュニティ施設とし、地域を活性化することを目的として設計しました。既存の建物の建築部分と思われる一部を取り壊し、道を広くするようにしました。扉には車庫庫を設け、その扉には多度津藩のシンボルツリーである桜の木を3本植え、花見などの場として利用してもらえようと思いました。1Fのロビー部分は、市民の方々が気軽に、自由に立ち寄れるように開放的な作りとしています。空きスペースにはベンチを設置し、市民の憩いの場となるようにしました。さらに、管理入室を設置することにより、施設をより安心してスムーズに利用してもらえようとしています。トイレを入口近くに設置して、準備がかりやすくしているのもポイントです。そして、1Fは、空きスペースとして利用できる空間になっています。大規模の色ガラスは既存の建物にあつたものを使用し、古民家特有の和風空間を演出しつつ、日本家屋の情緒イメージを一新するべく、明るく美しい色合いの内装にしました。2Fを、敷居高のように設置されたガラスからの眺望は、東西両方からの眺めが味わえる素晴らしいものとなっています。

CADによる再生



この作業では、3D CADと3Dイメージデザイナーを併用して使用しました。今回のテーマである「古民家再生」にそって、「人々が利用しやすい建築物」というコンセプトで製作しました。日本の古き良き建築物の良さを、なるべく生かし、その良さを現代の人々に残してもらうことを意識しました。実際に加島屋に行き、色調や素材などは取り、その寸法を元に3Dで図面を描いて、そこからまた3D CADで再生後の加島屋の図面を作成し、その3Dイメージデザイナーに渡し、建物や敷地などのデザインをいたしました。魅力のある、人々が利用しやすい空間ができたと思います。



東側立面図

西側立面図

南側立面図

北側立面図

東方向から見るとは、かつての大通りです。かつては道から物産が流れていき、道が広がったことだと思います。来年からは、この通りを明るく直し、再び活気のある地域を作るような建物を目指していきます。

西方向から見るとは、自力漁師の集まる場所です。多額の漁獲が得られている様子が見られます。西は三浦地区につながる細い道が通りますが、その路を家々が通っています。人通りが少ないですが、静寂は保っています。

南方向は多度津山がそびえ立ちます。東側の阿波倉倉庫も残っています。「一丸や一丸」などがあり、緑の歴史を感じられるような建物です。落ち着いた空間であり、自然を感じることが出来ると思います。年々通って良くなる場所です。

北方向は一面の江戸時代が望めます。東には多度津町設計事務所の事務所がある大瓦葺きです。作っくりと建つに似ていますが、年々通って良くなる場所です。